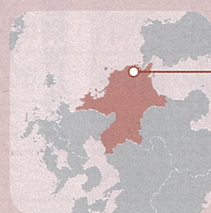


フェイス・トゥ・フェイスの 勧誘で会員増

北九州市八幡西区 星和会

(星和第一・第二・第三クラブ)

●会員数 142名(男性64名、女性78名)

北九州市
八幡西区

「見守り老人会」へ移行

私どもの星和町は、住民約1000名で、内65歳以上が400名を超える超高齢化地域です。2人に1人が認知症(またはその予備軍)の時代が到来すると言われている中、ここ数年ご近所でもこれらの前兆がかなり見受けられるようになりました。

そこで、歴代の町内会長経験者や民生委員、地域で活動している同好会、茶話会とグラウンド・ゴルフクラブといった各クラブの世話

この結果、28年度当初40名の会員から29年度初めには80名、29年度上半期には140名となりました。

※フェイス・トゥ・フェイスとは、「顔をあわせて面と向かって行うこと」

これを機に平成29年度下半期には、これまでの星和会を町内15組の区分けに合わせて、星和第一クラブ、星和第二クラブ、星和第三クラブに3分割しました。そして当時の星和



認知症サポーター講座にて

役などの方々、合計10名ほどにお集りいただいて、平成28年度後半に何回か会合をもち、これからの町づくりや各活動のことについて率直な話し合いを行いました。

その中で今後の老人会運営についても話し合いました。皆、高齢化が進む中での経験から「何とかしなければいけない」という思いがあり、「星和町が安全で住みやすい町であり続けるためには、高齢者同士が相互に見守りあう地域づくりが重要」と考えて、「元気な高齢者の老人会」から「見守り老人会」にシフト(移行)することにしました。

会正副会長(男性2名、女性1名)が三つのクラブの会長に就任しました。現在は3クラブで情報交換を密に行い、活動は合同で実施しています。

まず会員同士が 知り合うことから

新たな星和会では、まず会員の方が一人でも多くの仲間を知っていたために、日ごろの声かけや挨拶の活性化を行うようにしました。総会や懇親会その他の行事では名札を準備して、会員相互が知り合えるようにしました。また老人クラブや地域の行事へ誘い合っ

つて参加いただくため、四半期毎に「星和会だより」を発行して各会員宅へ届けるようにしています。

特にこの1年は、「見守り老人会」実現のために、上半期に「認知症サポーター講座」、下半期には昨今の異常気象や環境の変化に対応するため、「防災…もしもの時に備えていますか」を開催。これらを最重要課題と位置づけ、毎年内容をスパイラルアップ※として継続したいと考えています。

※スパイラルアップとは「改善が奏効しあつて継続的な向上に結びつくこと」

幸い当地域では町内会行事が活発で、市民

会員増を果たして、 クラブを3分割

星和会では、まず当地域の高齢者のネットワークづくりが重要と認識して、賛同を得て、平成28年末からフェイス・トゥ・フェイス※で2度の会員拡大活動を行いました。



役員会の様子



防災に関する講座

センターの行事や同好会活動も盛んなので、元気な高齢者の活動の場は充実しています。会員の皆さんがこれらの活動の場を積極的に活用していただくように働きかけて、町内会、市民センター及び同好会や各クラブとより密接に情報交換を行い、さらによりよい関係を築いていきたいと考えています。

(会長 上村文男)

